

◆ 従量制と累進制について

使用水量に応じて使用料単価が高くなる仕組みのことを、水道事業では従量制、下水道事業においては累進制と呼ばれています。

【水道事業の従量料金の根拠】

- ・ 使用水量が多いほど施設への負荷が大きくなるため、水道施設の費用を多く負担すべきとの考え
- ・ 大量に水を使用する事業者や家庭に対して、使用量の抑制を促すという考え
- ・ 日常生活に最低限必要と考えられる分の料金は、低廉であるべきとする考え

【下水道事業の累進使用料の根拠】

- ・ 使用水量が多いほど施設への負荷が大きくなり変動幅も大きいため、費用を多く負担すべきとの考え
- ・ ナショナルミニマムとしての考え ※ ナショナルミニマムとは、最低限の生活保障のこと

水道事業や下水道事業など、ライフラインでこの方式が広く採用されており、本市の上下水道料金においても、従量制と累進制が採用されています。